

さよなら原発！ さよなら空母！

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

2013年2月26日 第6号

神奈川の原子力

空母と核燃料工場の危険性を考える

～山崎久隆さんの講演を聞いて～

プルトニウムフリーが参加している、ストッププルトニウム神奈川連絡会の2013年総会&講演会が1月24日、神奈川労働プラザにて開催されました。講演を聞いた会員の感想をお届けします。

「東日本大震災による東京電力福島第1原発事故で、11年3月12日に1号機格納容器の水蒸気を外部に放出する「ベント」を始める約5時間前から、放射性物質が約10キロ圏に拡散していたことがわかった。放射線量が通常の700倍超に達していた地点もあり、避難前の住民が高線量にさらされていた実態が初めて裏づけられた。」今日、こんな記事を見ました。

1月24日ストッププルトニウム神奈川連絡会の総会後の講演で山崎久隆さんのお話を聞きました。

神奈川にも2つの原子力施設があること、1つは横須賀軍港に入港する米軍原子力空母、1つは久里浜にあるGNF-Jウラン燃料加工施設です。

この2つについて、はじめて耳にすることではありませんが、ここ神奈川にも福島と同

じような放射性物質による被害の可能性がないとは言えないことを知りました。ここ神奈川が地震や津波に遭わないという保証はどこにもなく、むしろ三浦半島は有数の地震地帯だそうです。

福島の例を見れば明らかなおとおり、地震や津波が来て、原子炉を持っている原子力空母が座礁し、ウラン加工工場であるGNF-Jが津波の被害を被ったら…。

昨年、鎌仲ひとみさんの講演で「地震が来た時、すぐに、一刻も早く原発から遠ざかろうとした。知人に電話を掛けまくり、一刻も早く避難することを呼び掛けた」と話していました。その時は、まだ実感として捉えられず、そんなに緊急を要することなのかと漠然と感じていました。

最近、冒頭の記事のような福島の実態が少しずつ知られるようになってきました。放射能汚染はあつという間に広がっていたのですね。私のような鈍感な人間は気が付いた時には、情報が届いた時には、すでに被ばくしているということでしょうか。

恐ろしいです。

もし、原子力空母やGNF-Jで、地震や津波、もしくはそれ以外の事故で放射能漏れがあった時、国は被ばくを完全に防ぐ対策をしてくれるのでしょうか？ 個々人のことなど、それどころではないでしょうね。福島を見れば明らかです。

今、私は小さな子供を持つ姪や子供を持つ可能性のある娘たちと万が一（今や万が一と言っていない）の場合の対応を話しておこうと思っています。

ですが、何よりも原発がなくなること、原子力空母、潜水艦の寄港、原子力施設が

なくなることが一番であること と言うまでもありません。(E. K.)



神奈川には住宅街に「原子力研究所」も・・・

2011年3月11日の地震の時は、東京都市大(旧武蔵工業大)研究所近隣の方々は、核燃料は2006年8月アメリカに運びだされているものの、建屋や原子炉は大丈夫かと大変心配しました。研究所や川崎市へ問合せもあった

ようです。幸い何事もなかったとのことで胸をなでおろしましたが、住宅街の原子炉は廃炉になっても近隣住民にとってはいつまでたっても心配の種です。

研究所見学の機会があり、解体廃棄物の様

子など見ることができました。稼働時のままの原子炉建屋の中は、廃炉中のためガラとした印象でした。部屋の中央には昔のままの原子炉がどっかとありますが、炉の中の核燃料を支えるグリッド板や制御棒など駆動装置はすっかり取りだされガランドウの状態。原子炉の周りには取りだされた機器が黄色に塗られた遮蔽コンテナやドラム缶に収納され置かれていました。2004年解体当時は最大20³シーベルト/時あった放射性廃棄物をもって行き場がなく建屋内において置くしかない状



← ガラントウの原子炉内

↓ 廃棄物を詰めたドラム缶等



態です。東京都市大の北隣にある日立製作所王禅寺センターの原子炉も原子炉建屋の床にドラム缶が置かれています。1976年に炉内の構造物の撤去が終了して、現在は36年たってさびたドラム缶を新缶に入れ替え作業をおこなっているそうです。

文部科学省は研究炉と医療用の放射性廃棄物を埋設する方針を出し、日本原子力研究開発機構が放射性廃棄物埋設施設を建設することになっていますが、全く目途はたっていません。そのため廃炉の作業は、最低限の原子炉駆動装置のみを解体した状態で停滞しているのです。神奈川県内には他に廃炉措置中の日立炉・東芝炉・立教炉がありますが、核燃料はすでに運び出され、廃棄物が同じように原子炉建屋の中でドラム缶やコンテナに詰めて保管されています。

商業用原子炉に比べれば廃棄物の量も放射能も少ないのですが、処理処分の難しさは商業用原子炉と何も変わりません。

(N. Y.)

『大間原発 大間違い！』電源開発(株)と経済産業省に要望書提出

2012年11月28日、さよなら原発かながわの主催で、日本のプルトニウム利用政策と大間原発の関係、使用済み核燃料の処理問題について学習会を開催しました。原発敷地内の土地を電源開発に売却せず、原発建設をストップさせてきた熊谷あさこさんの遺志を引継ぐ小笠原厚子さんも迎えて、大間原発は不要で危険、電源開発と経済産業省に要望書を提出しようと参加者一同で確認しました。

衆議院の解散総選挙、安倍政権の発足などがあり、要望書提出の時期が遅れてしまいましたが、1月18日、電源開発と経済産業省を訪問し、賛同団体61団体、賛同人526名の名簿を添付して、担当者に手渡しました。

電源開発は広報室が対応、経済産業省は資源エネルギー庁電力・ガス事業部政策課が窓口となり、当日は原子力立地・核燃料サイクル産業課の担当者も同席して意見交換しました。(Y.M.)

電源開発株式会社
社長 北村 雅良 様

大間原発の建設断念を求める要望書

私たちは、大間原発と日本のプルトニウム政策について学ぶために集まった市民です。

日本初というフルMOX原子炉の危険性、日本政府の核燃料サイクル政策により大量の余剰プルトニウムを抱えていること、使用済み核燃料の再処理を継続すれば大間原発をフル稼働しても使いきれないプルトニウムを抱えることになり、国際的な非難を浴びることになることなどを知りました。

仮に、プルトニウムを大間原発で燃料として使用したとしても、放射性物質は消滅しません。現在六ヶ所再処理工場や全国の原発サイトで保管されている使用済み核燃料が、再処理を経て使用済みMOX燃料という形に変わるだけです。使用済みMOX燃料では処理が難しい長寿命核種が増えると指摘されています。使用済み核燃料処分問題の先送りはやめるべきです。

また、大間原発の周辺には複数の活断層が存在する可能性が指摘されています。MOX燃料を全炉心に装荷する大間原発を震災が襲った場合の被害は計り知れません。原発直下を襲う地震に対して安全な原発を設計・建設することができると思えません。

原子力発電は福島第一原発事故でそのリスクの大きさが明らかになりました。私たちは、原発でつくった電気で暮らしたくありません。まして、プルトニウム利用ではそのリスクがさらに大きくなります。プルトニウムでつくった電気など御免です。

2004年に株式を上場して完全民営化した電源開発株式会社としては、すでに計画が破たんしている日本政府のプルトニウム利用政策とは一線を画し、大間原発の建設を断念することを経営判断されるよう、強く要望いたします。

2013年1月18日

2012.11.28 学習会「大間原発 大間違い！」参加者一同
学習会主催 さよなら原発かながわ
問い合わせ先 611kanagawa@gmail.com
賛同団体・賛同人 名簿別紙のとおり



「原子力規制庁」の「原子カムラ体質」は許せません！

事業者の日本原子力発電に敦賀原発断層調査の情報を提供したのは、名雪審議官個人の問題で片付けていいのでしょうか？

皆さん、暮れのご挨拶やら、新年のご挨拶を規制する側とされる側で行われることをどう思いますか？

福島原発事故を受けて設立された原子力規制庁は、そうし

た儀礼上の面会を問題ないと思っているのです。

原子力保安院の時とその体質は全く変わっていません。

それどころか原子力規制庁のナンバー3である審議官が、敦賀原発の断層調査情報を、業

者である日本原電に、原子力規制委員会に報告書として提出する前に手渡したのです。

その名雪審議官は地震、津波の新安全基準づくり、再稼働の新安全基準にも携わっていた人物です。

敦賀原発の現地調査や評価
 会合での議論をもとにした報告
 書作成に関わっていた人物です。

そうした人が単独で審査さ
 れる側の日本原電と面談し、内
 部資料を手渡したのです。

福島原発事故後中立性と独
 立性を謳う原子力規制委員会の
 事務局でこのような事件が発覚

したことは、いまだ原子カムラ
 の体質が何ら変わっていないこ
 とを示すものです。

もっと大きな問題となってい
 かるべきだと私は思うのですが、
 マスコミも大して突っ込んでい
 ないと思います。

規制庁は名雪氏個人の内規
 違反にとどめ、更迭したとのこと

ですが、名雪氏は出身母体の文
 科省に戻っただけです。

業者は欲しかった内部資料
 を手にすることができたのです
 から、お礼と言うのは一体何だ
 ったのでしょうか？

これは個人の問題なのでし
 ょうか？ (K.I.)

反原発出前します！ 2013年連続講座

連続講座の後半が決まりました。
 隔週木曜日開催です。

第5回 3月28日
 行く先のない核のゴミと
 核施設問題

第6回 4月11日
 電気は本当に足りないのか？

第7回 4月25日
 収束しない福島第一原発事故

第8回 5月2日
 私たちの選択
 —正しく判断するためには—

昼の部は 13:30~15:45
 夜の部は 18:30~20:45
 (昼夜は同じ内容です)

会場・昼の部：たんぼぼ舎
 (JR総武線水道橋駅徒歩)

夜の部：連合会館(旧総評会館)
 (東京メトロ千代田線
 新御茶ノ水駅徒歩ゼロ分)

参加費：1回700円

主催：反原発出前のお店

賛同団体：原子力資料情報室
 平和フォーラム

参加申込はメールで
team-takagi@mbr.nifty.com
 詳細は同封のチラシで…

脱原発かながわ勝手連 2013年参院選へ 各政党に「大合流」を要請 あなたも“要請人”になってください！

脱原発かながわ勝手連では衆議院選挙の結果に危機感を
 深め、この夏の参議院選挙に向けて私たちに何ができるの
 か、何が必要なのか、話し合いを続けてきました。

そして、神奈川から全国に先駆けて、2月20日、自公
 与党及び維新の会を除くすべての政党、政治団体に、市民
 から「大合流」を要請しました。要請の趣旨は、【反原
 発・反憲法改悪・反TPP・反貧困】の「大合流」です。提
 出した要請書を同封します。

3月10日の回答期限まで要請人の募集を継続し、追加
 で提出します。氏名と住所(市区名まで)、メールアドレス
 を同封の用紙に記入してFAXまたは郵送で下記のプル
 トニウムフリー宛に送ってください。

要請人の署名は下記のページからもできます。

<http://611kanagawa.org/>

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川 定例会のお知らせ

日時 3月26日(火) 午前11時~午後3時
 (印刷発送作業終了後、会議を行います。)

場所 神奈川県民活動サポートセンター 708号室
 アクセス：横浜駅西口ヨドバシカメラ裏

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

〒221-0002 神奈川県横浜市神奈川区大口通 83-2-213 (水沢気付)

Tel&Fax.045-423-0341 pu-free-com@k.nifty.jp
<http://pu-free-com-kana.cocolog-nifty.com/blog/>